



まちづくり検討会議 ニュースレター vol.4

令和6年
9月

「学生検討会議を実施しました！～アンケート結果を分析しよう～」

9月23日（月・祝）に、学生検討会議を実施しました。

最初に前回までの振り返りを行い、その後、大塚会長よりアンケートの結果・今後の取り組み内容について説明していただきました。

【活動の目的】

活動実態と住民構成とのギャップがあるのではないか。

→地域活動の担い手は高齢化している一方で、茨木地区は生産人口（15歳～64歳）が多い地区

新たな担い手となる人材を発掘するためにどんな活動に取り組んでいけるのか考えていきたい！

【ステップ1】

ふるさと祭りに参加する人を対象に地域活動への関心を

調査するためにアンケートを実施

【ステップ2】

アンケートの結果を分析しよう！

◆学生検討会議概要

日時 2024.9.23（月・祝）10:00～12:00

会場 男女共生センターローズ WAM401・402

参加者数 学生 3名

地域の方 1名

プログラム

- 1 これまでの振り返り・アンケート結果の共有
- 2 アンケート結果の分析
- 3 意見交換



「ふるさと祭りのアンケート結果を分析しよう」

アンケートの結果・今後の取り組み内容について説明を聞いた後は、アンケート結果について分析しました。アンケート分析を行う中で、3つのアイデアが出ました。

アイデア①

こどもの地域活動の参画を促すことで、大人の関心や参画につなげる
→「こどもが主体的に活動に参加できるしくみづくり」

- こどものアンケートより、「出店したい」と思っている割合が高いことや、大人のアンケートより、行事参加の理由に「こどもが楽しみにしているから参加する」という割合が高いことから、**こどもが出店したときに、こどものためならサポートしよう**と考える大人を引っ張ってこられるかも。
- ふるさと祭りには、PTA や学校の先生も出店しているので、**こどもが出店するブースと一緒に連携できるブース**も可能ではないか。
- こどもの頃から地域活動に携わる経験が、**成長してから担い手になる可能性**を高める。

アイデア② 参加のきっかけづくり（情報の届け方）

- 企画運営は難しいが、当日準備やイベントサポートなど短い期間なら**協力できる**と回答している人が多い。「イベントのお知らせ」の案内だけでは、協力してくれる方の参加につながらないので、色々な媒体を活用して、**具体的な募集案内**が必要なのでは。行事などで、企画から携われる、当日の会場設営ならできるなど、**参加方法を具体化して募集をする**など、参加しやすい工夫をする。
- 地域情報誌、HP 等の媒体を活用することや、地域の色々な団体やお店に協力してもらって、**地域の多くの人に情報が届く工夫**をする。
- チラシ作成時には、**楽しさや役立つ情報を全面に出す工夫**をする。

アイデア③ 多様な主体との連携

- 関係人口**である、学生や企業、市民活動団体などの参画を促すことで、地域活動のマンネリ化を脱却できるかも。
- いろいろな人が関わることで、広がりが出て、**地域活動の担い手のすそ野を広げるきっかけ**につながるかも。

今後に向けて

今回の話し合いで出た、新たな担い手となる人材を発掘するためのアイデアを、次回、企画内容として具体的に考えながら、11月10日の文化祭に向けて準備を進めていきましょう！

